

平成 XX 年度 修士論文

日本語タイトル

English Title

提 出 日	平成 XX 年 X 月 X 日
審査員主査	XX XX 教授
審 査 員	XX XX 准教授
所 属	XXX 大学大学院 博士前期課程 工学研究科 XXXX 専攻
学 生 番 号	XXXXXXXXX

XX XX

目次

第 1 章	序論	1
1.1	導入	1
1.2	表の使い方	1
1.3	参考文献の使い方	2
1.4	数式の使い方	2
1.5	定義・補題・定理・証明の使い方	3
第 2 章	基本的な使い方	5
2.1	図の使い方	5
2.2	表の使い方	5
2.3	参考文献の使い方	6
2.4	数式の使い方	6
2.5	定義・補題・定理・証明の使い方	7
付録 A	おまけ 1	9
付録 B	おまけ 2	11
謝辞		13
参考文献		15
研究業績一覧		17

目次

1.1	青い丸	1
2.1	青い丸	5

表目次

1.1	買うもの	1
2.1	買うもの	5

第 1 章

序論

1.1 導入

図 2.1 が青い丸である .

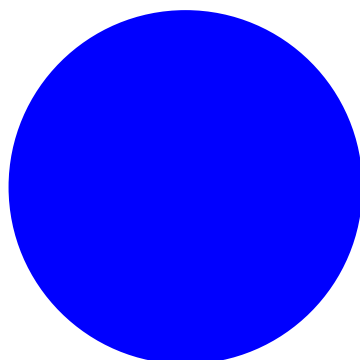


図 1.1 青い丸

1.2 表の使い方

買うものを表 2.1 に示す .

表 1.1 買うもの

品名	単価 (円)	個数
りんご	100	5
みかん	50	10

1.3 参考文献の使い方

BibTEX を使うと、参考文献リストが自動で生成される。

LDPC 符号は Gallager により提案された誤り訂正符号である [1]。

標本空間から実数へ写像する関数のことを、確率変数と呼ぶ [2, p.20 Definition 2.1]。

1.4 数式の使い方

インラインでは $\sum_{k=1}^n k$ のように書く。

別行数式は、

$$E = mc^2 \quad (1.1)$$

のように書く。「6 ページの式 (2.1)」のように、式を参照することができる。

複数の数式を並べるには、

$$(a + b)^2 = a^2 + 2ab + b^2 \quad (1.2)$$

$$(a - b)^2 = a^2 - 2ab + b^2 \quad (1.3)$$

$$(a + b)^3 = a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3 \quad (1.4)$$

のように書く。

位置をそろえて数式を書くには、

$$\begin{aligned} \sinh^{-1} x &= \log(x + \sqrt{x^2 + 1}) \\ &= x - x^3/6 + 3x^5/40 + \dots \end{aligned} \quad (1.5)$$

のようにする。

長い数式を複数行にわたって書くには、

$$\begin{aligned} a + b + c + d + e + f + g + h + i + j + k \\ + l + m + n + o + p + q + r + s + t + u + v \\ + w + x + y + z + \alpha + \beta + \gamma + \delta \end{aligned} \quad (1.6)$$

のようにする。最初の行は左により、最後の行は右による。

ベクトルなどをイタリック体の太字で表したいときには、

$$\mathbf{a} \quad (1.7)$$

のようにする。

数式の中で普通の文字を使いたい場合は，

$$\mathbb{I}[c \text{ が例のベクトルである}] \quad (1.8)$$

のようにする．

行列は，

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \quad (1.9)$$

のように書ける．

数理計画問題は，

$$\begin{aligned} &\text{minimize} && (x_1 + x_2 + \cdots + x_n) \\ &\text{subject to} && x_i + x_j \geq 1, (i, j) \in E \\ &&& x_i \in \{0, 1\}, i \in \{1, 2, \dots, n\} \end{aligned} \quad (1.10)$$

のように書くと，式番号が中央にくるのできれいかもしれない．

1.5 定義・補題・定理・証明の使い方

定義 1.1 定義を書く．

補題 1.1 補題を書く．

定理 1.1 定理を書く．

定理 1.2 (The title) 定理を書く．

証明： 証明を書く．

□

第 2 章

基本的な使い方

2.1 図の使い方

図 2.1 が青い丸である .

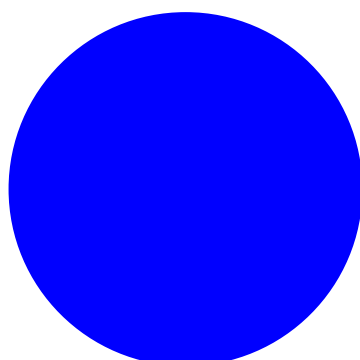


図 2.1 青い丸

2.2 表の使い方

買うものを表 2.1 に示す .

表 2.1 買うもの

品名	単価 (円)	個数
りんご	100	5
みかん	50	10

2.3 参考文献の使い方

LaTeX を使うと、参考文献リストが自動で生成される。

LDPC 符号は Gallager により提案された誤り訂正符号である [1]。

標本空間から実数へ写像する関数のことを、確率変数と呼ぶ [2, p.20 Definition 2.1]。

2.4 数式の使い方

インラインでは $\sum_{k=1}^n k$ のように書く。

別行数式は、

$$E = mc^2 \quad (2.1)$$

のように書く。「6 ページの式 (2.1)」のように、式を参照することができる。

複数の数式を並べるには、

$$(a + b)^2 = a^2 + 2ab + b^2 \quad (2.2)$$

$$(a - b)^2 = a^2 - 2ab + b^2 \quad (2.3)$$

$$(a + b)^3 = a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3 \quad (2.4)$$

のように書く。

位置をそろえて数式を書くには、

$$\begin{aligned} \sinh^{-1} x &= \log(x + \sqrt{x^2 + 1}) \\ &= x - x^3/6 + 3x^5/40 + \dots \end{aligned} \quad (2.5)$$

のようにする。

長い数式を複数行にわたって書くには、

$$\begin{aligned} a + b + c + d + e + f + g + h + i + j + k \\ + l + m + n + o + p + q + r + s + t + u + v \\ + w + x + y + z + \alpha + \beta + \gamma + \delta \end{aligned} \quad (2.6)$$

のようにする。最初の行は左により、最後の行は右による。

ベクトルなどをイタリック体の太字で表したいときには、

$$\mathbf{a} \quad (2.7)$$

のようにする。

数式の中で普通の文字を使いたい場合は，

$$\mathbb{I}[c \text{ が例のベクトルである}] \quad (2.8)$$

のようにする．

行列は，

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \quad (2.9)$$

のように書ける．

数理計画問題は，

$$\begin{aligned} &\text{minimize} && (x_1 + x_2 + \cdots + x_n) \\ &\text{subject to} && x_i + x_j \geq 1, (i, j) \in E \\ &&& x_i \in \{0, 1\}, i \in \{1, 2, \dots, n\} \end{aligned} \quad (2.10)$$

のように書くと，式番号が中央にくるのできれいかもしれない．

2.5 定義・補題・定理・証明の使い方

定義 2.1 定義を書く．

補題 2.1 補題を書く．

定理 2.1 定理を書く．

定理 2.2 (The title) 定理を書く．

証明： 証明を書く．

□

付録 A

おまけ 1

おまけがある場合はここに書く．

付録 B

おまけ 2

おまけがある場合はここに書く．

謝辞

ここに謝辞を書く。

参考文献

- [1] R.G. Gallager. Low-density parity-check codes. *Information Theory, IRE Transactions on*, Vol. 8, No. 1, pp. 21–28, 1962.
- [2] Michael Mitzenmacher and Eli Upfal. *Probability and computing: Randomized algorithms and probabilistic analysis*. Cambridge University Press, 2005.

研究業績一覽

口頭発表

- (1) 口頭発表 1
- (2) 口頭発表 2

査読付論文

- (1) 論文 1
- (2) 論文 2

受賞

- (1) 受賞 1
- (2) 受賞 2